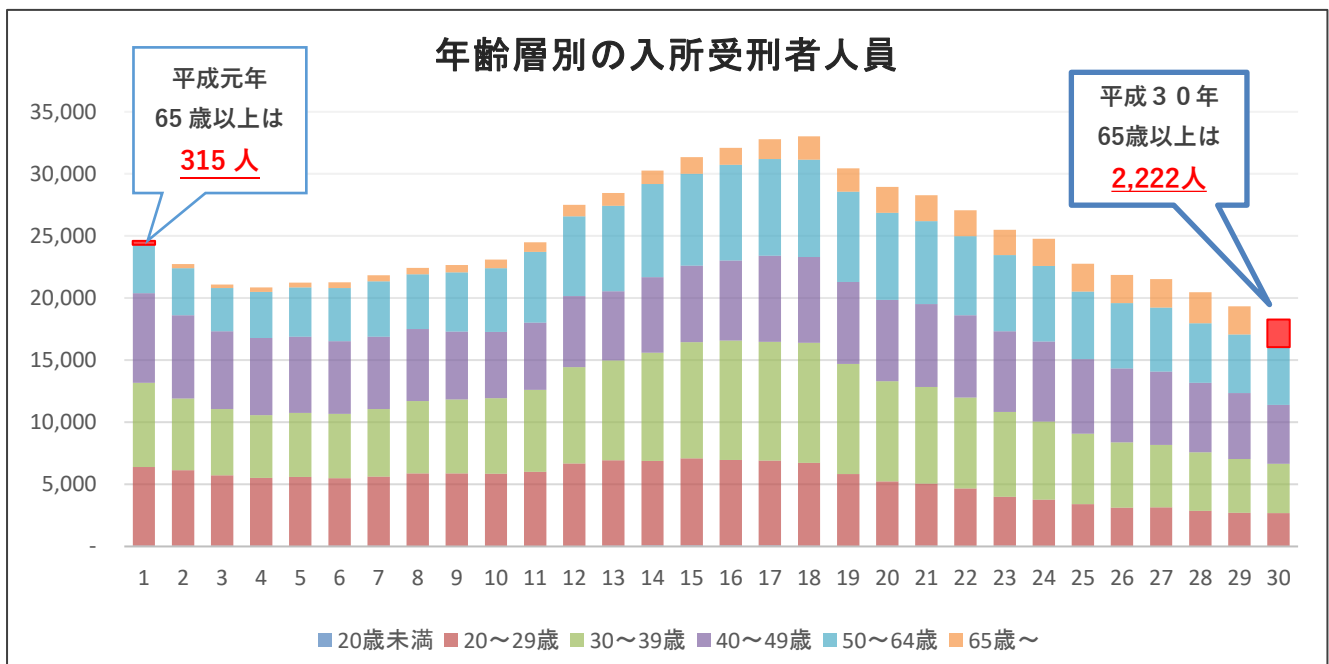


全国の入所受刑者と高齢者率

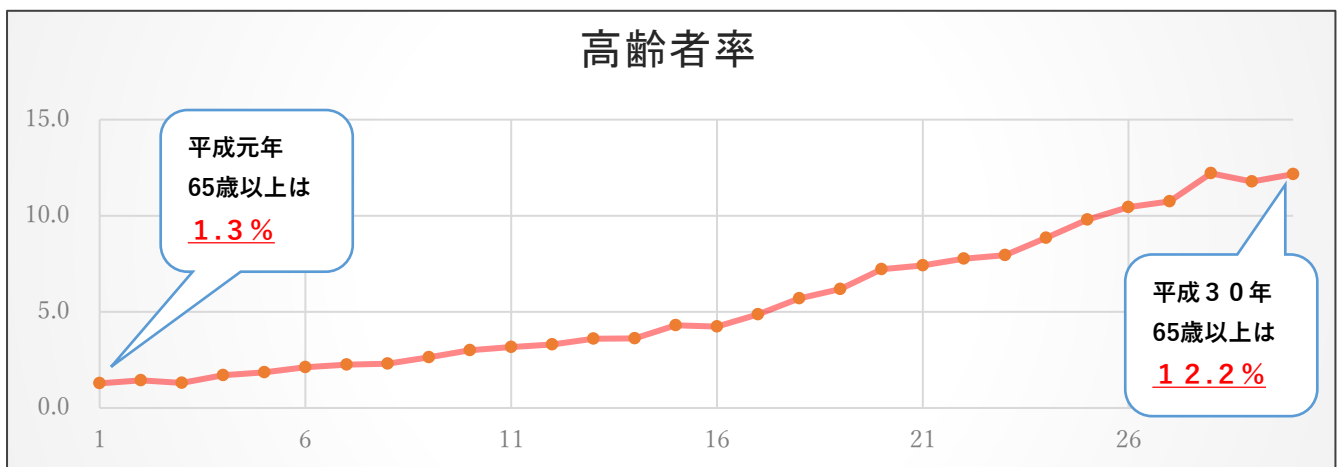
図1-1、図1-2は、全国の年齢層別の入所受刑者人員及び高齢者率（入所受刑者人員に占める高齢入所受刑者の人員の比率をいう。）の推移（平成元年以降）です。

高齢入所受刑者の人員は増加傾向にあり、平成30年は2,222人（前年比2.5%減）でありましたが、平成元年と比べて約7.1倍に増加しています。特に、70歳以上の入所受刑者人員の増加が顕著であり、平成元年と比べて約13.3倍に増加しました。平成2年以降の高齢者率を見ると、上昇傾向にあり、平成30年は12.2%でありましたが、元年と比べると10.9pt上昇しています。

（図1-1）



（図1-2）

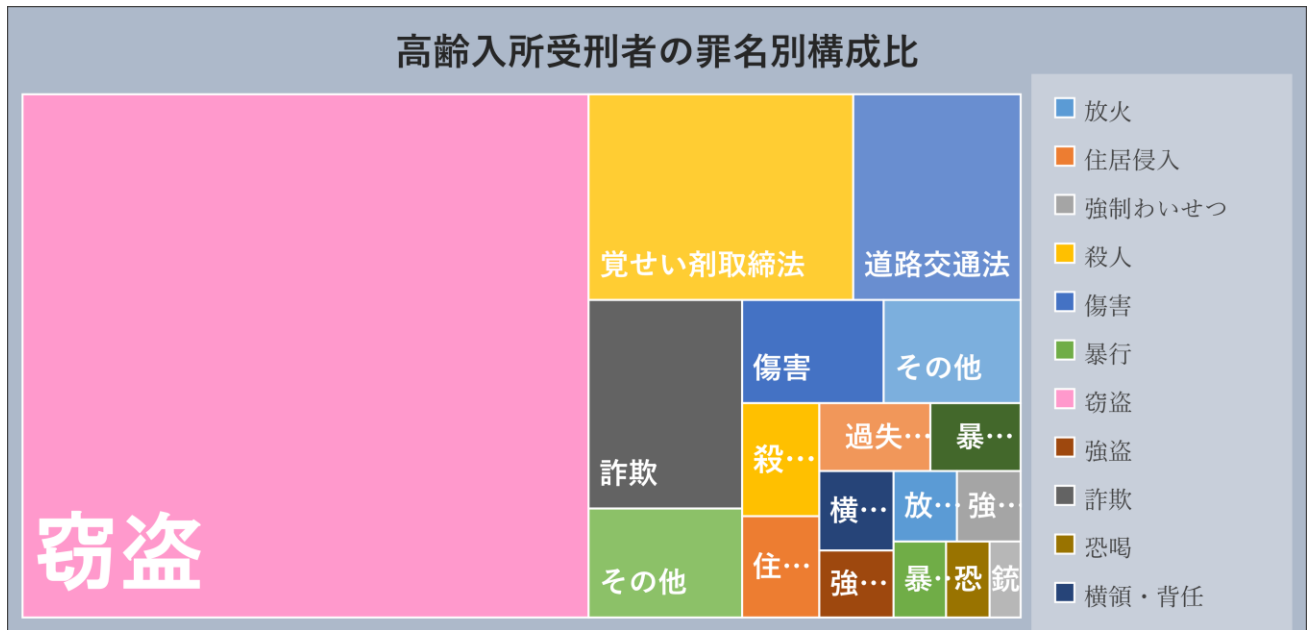


（令和元年版犯罪白書より）

高齢入所受刑者の罪名別構成比

図2は、平成30年における全国の高齢者の入所受刑者の罪名別構成比を面積で表したものです。罪名別構成比について全高齢者で見ると、窃盗、覚せい剤取締法違反、道路交通法違反の順となり、詐欺の構成比が低下しました。

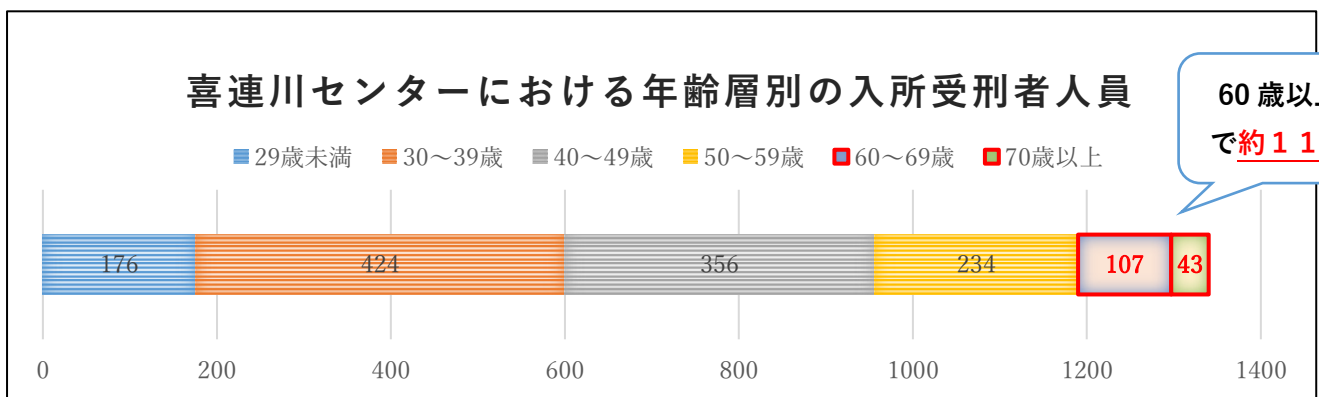
(図2)



(令和元年版犯罪白書より)

喜連川社会復帰促進センターにおける高齢者の入所受刑者の罪名別構成比

図3は、令和元年における喜連川社会復帰促進センターの年齢層別の入所者人員です。高齢受刑者の割合は、全国の比率と同様の傾向にあり、60歳以上で約11%となっています。



特化ユニットプログラムについて

喜連川社会復帰促進センターでは、高齢受刑者等のスムーズな社会復帰を目的として、以下のプログラムを実施しています。



○ リハビリスポーツプログラム

対象：身体障害又は身体機能の低下等が認められる者。

概要：障害者及び高齢者向けのスポーツ種目（ペタンク、ボッチャ等）の実施。

生活習慣病、社会保障制度及び社会資源の活用方法等の情報共有。

目的：身体機能低下を防止する。スポーツ活動を通じて、出所後の社会活動に積極的に参加できるようにする。

○ 脳トレーニングプログラム

対象：加齢により認知機能が低下するおそれがある者（認知症者を除く）

概要：簡単な読み書き計算を中心とした脳トレーニングを実施する。健康や生活に関する相談に応じ、社会保障制度等、社会資源の情報を共有をする。

目的：認知機能の低下を予防する。判断ミス招かない等の行動や感情の制御、コントロールといった、制御系の機能を持つ「前頭前野」を活性化させる。



○ フラワーセラピープログラム

対象：情緒的な問題又は認知機能の低下等により不適応行動が認められる者。

概要：生花（協力：日比谷花壇）のアレンジメントの実施。

目的：目標達成の経験を通じて、自分がしたことに対する達成感や喜びを感じ、次への挑戦意欲を引き出す。

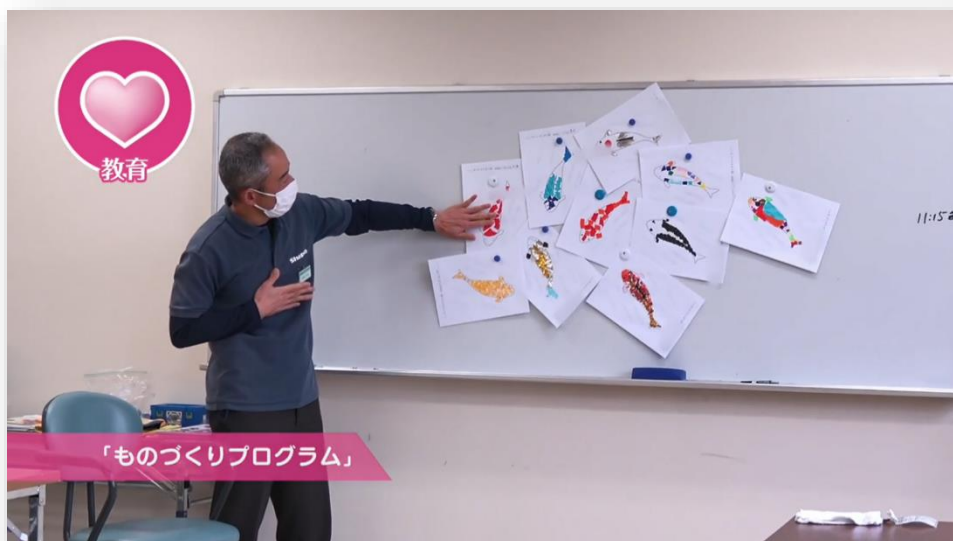


○ ものづくりプログラム

対象：自己表現に課題を有する者。

概要：粘土やちぎり絵等の創作活動を実施し、作品の説明を中心としたグループミーティングを実施する。病気や障害の説明に加えて、社会保障制度及び社会資源の活用方法等の情報を共有させる。

目的：創作活動及びグループミーティングを通じて自己表現力を養うとともに、病気や障害の理解を促すことで、それらと向き合いながら健全な社会生活を送れるようにする。



○ いきいきプログラム

対象：初期認知症又は精神障害等により心身機能が低下している者。

概要：回想法及び各種活動（歌唱、障害者スポーツによる身体活動等）を実施する。社会保障制度及び社会資源の活用方法等の情報を共有させる。また、集団ではプログラムの受講が難しい者を対象とし、他の特化プログラムになじまなかった者に対し、従来のいきいきプログラムの内容をより個別化することで、本人の潜在能力を引き出す。

目的：認知機能の低下予防等、心身機能の改善を図り、社会復帰に向けた準備を整える。

